

令和2年4月30日  
近畿総合通信局京都大学、大阪大学及び兵庫県立大学の研究開発を支援  
(令和2年度研究開発課題の公募結果の公表)

総務省は、戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の令和2年度研究開発課題の公募について、外部評価の結果、近畿総合通信局（局長：佐々木祐二（ささき ゆうじ））管内から応募のあった4件の研究開発課題を採択しました。

総務省は、情報通信分野の競争的資金である「戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）」の令和2年度社会展開指向型研究開発課題及び電波有効利用促進型研究開発課題の公募を、令和2年1月6日（月）から2月6日（木）まで実施したところ、全国の大学・民間企業等から85件の応募がありました。これらの提案について外部専門家・外部有識者による評価を実施し、その結果を踏まえて、[別紙1](#)のとおり全国で20件の研究開発課題の採択を行い、近畿総合通信局管内においては、19件の応募のうち4件の研究開発課題が採択されました。

なお、採択された4件の研究開発課題の概要は、[別紙2](#)のとおりです。

（参考）

戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE<sup>※</sup>）は、情報通信技術（ICT）分野において新規性に富む研究開発課題を大学・独立行政法人・企業・地方自治体の研究機関などから広く公募し、外部有識者による選考評価の上、研究を委託する競争的資金です。これにより、未来社会における新たな価値創造、若手ICT研究者の育成、中小企業の斬新な技術の発掘、ICTの利活用による地域の活性化、国際標準獲得等を推進します。

※SCOPE：Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme

## ○関連報道発表[総務省本省発表]

・戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の令和2年度社会展開指向型研究開発及び電波有効利用促進型研究開発課題の公募の結果

（令和2年4月30日）

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000301.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000301.html)

・戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の令和2年度研究開発課題の公募

（令和元年12月25日）

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000001\\_00001.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000001_00001.html)

## &lt;参考資料&gt;

- ・令和2年度 応募件数・採択件数・・・・・・・・・・・・・・・・別紙1
- ・令和2年度 採択課題一覧（近畿総合通信局管内）・・・・・・・・別紙2

連絡先

**【事業全般、社会展開指向型研究開発】**

情報通信部 情報通信連携推進課（担当：中野、雲林院）

電話：06 - 6942 - 8623

ファクシミリ：06 - 6920 - 0609

メール：renkei-k/atmark/soumu.go.jp

**【電波有効利用促進型研究開発】**

無線通信部 電波利用企画課（担当：三宅、盛）

電話：06 - 6942 - 8543

ファクシミリ：06 - 6920 - 0611

メール：scope-kikakukinki/atmark/soumu.go.jp

（注）スパムメール防止のため、「@」を「/atmark/」と表記しています。

## 令和 2 年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 応募件数・採択件数

プログラム名	近 畿		全 国	
	応募 件数	採択 件数	応募 件数	採択 件数
社会展開指向型研究開発（3年枠）	17	3	69	12
電波有効利用促進型研究開発	2	1	16	8
（先進的電波有効利用型）	1	1	13	6
（先進的電波有効利用型（社会展開促進型））	1	0	3	2
合 計	19	4	85	20

## 【参 考】各プログラムが対象とする研究開発課題

## ○ 社会展開指向型研究開発

情報通信審議会「新たな情報通信技術戦略の在り方」第1次中間答申（平成27年7月28日）及び第2次中間答申（平成28年7月7日）等を踏まえ、IoT/BD/AI時代に対応して、技術実証・社会展開を意識した、新たな価値の創造、社会システムの変革並びに地域の活性化及び課題の解決に寄与するICTの研究開発。

※ 3年枠：基礎的な段階からのボトムアップ的な研究開発を想定。

## ○ 電波有効利用促進型研究開発

（先進的電波有効利用型）

電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発。

（先進的電波有効利用型（社会展開促進型））

電波を用いたIoTシステムの構築や社会展開を促進し新たなワイヤレスビジネスの創出を意識した研究開発。

## ■令和2年度社会展開指向型研究開発(3年枠) フェーズ I 採択課題(3課題)

課題名	研究代表者(所属機関)	研究分担者(所属機関)	概要	期間
観光の個人化と分散化を促進する情報推薦基盤と地域観光支援システムの構築	馬 強 (京都大学)	—	本研究では、SNSやIoTセンサから得られるユーザ履歴データ及び行政や地元業者のオープンデータなどの着地情報を用いて、観光や日常生活におけるユーザの行動をモデリングする。これによりユーザの嗜好を推定し、観光における個人行動の「探索」と「活用」、及び「個々のユーザのマイクロ最適化」と「地域全体のマクロ最適化」の誘因両立性の制約を満たす観光情報推薦の基盤技術を開発する。それらを用いて地域観光支援システムを開発し、持続可能な観光立国や地域社会に貢献する。	1か年度
高セキュリティなプラズモニック印鑑の創製とクラウド認証の研究開発	山口 明啓 (兵庫県立大学)	福岡 隆夫(京都大学)	グローバル化する流通において、偽造品の被害が拡大している。本研究開発では、高セキュリティかつ低コストなプラズモニック暗号技術の開発と実装を行い、偽造防止技術を社会実装することを目的とする。暗号処理を実現するナノタグインクとプラズモニック印鑑を創製し、クラウド認証システムと組み合わせることで高度なセキュリティ認証システムを創出する。	1か年度
Human-Wildlife Harmony in Society 5.0 using Resilient SIGFOX Telecommunication	Vincenot C. E. (京都大学)	大手 信人(京都大学)、Adam Jatowt(京都大学)	This project will (i) pioneer miniature animal trackers relying on novel low-energy/low-cost SIGFOX (0G) telecommunication and (ii) develop a human-wildlife conflict prevention and real-time alert system to protect society without harming wildlife.	1か年度

## ■令和2年度電波有効利用促進型研究開発(先進的電波有効利用型) フェーズ I 採択課題(1課題)

課題名	研究代表者(所属機関)	研究分担者(所属機関)	概要	期間
超高密度IoTを実現する非同期パルス符号多重通信の研究開発	若宮 直紀 (大阪大学)	ペパー フェルディナンド ライブニッツ ケンジ (国立研究開発法人情報 通信研究機構) 長谷川 幹雄 (東京理科大学)	本研究開発課題では、(1)大規模多重通信が可能な非同期パルス符号多重通信方式の確立、(2)10000台規模の省コスト、省電力かつ低レートなデバイスを収容する通信システムの実証を目標とし、課題1:非同期パルス符号多重通信アルゴリズム開発、課題2:非同期パルス符号多重通信のパラメータ最適化技術開発、課題3:実証実験による有効性・有用性の検証に取り組む。	1か年度